

アドック神戸

電気自動車に活路

阪神・淡路大震災を機に発足した中小製造業の共同受注グループ「アドック神戸」でこのほど、発足後初のトップ交代があった。グループを1年率いた森合政輝会長(67)森合精機(明石市)社長に後任に、藤谷良樹・神戸製鋼工業(高砂市)社長(50)が就任。世界同時不況後も厳しい局面が続いており、新体制は実用化が進む電気自動車の分野で新事業の可能性を探る。(内田尚典)

同グループは、兵庫県中小企業家同友会が震災後に設けた製造部会が前身。機械製造や金属加工など異業種の中小企業が協力し震災後の不況を乗り切ろうと、99年に発足した。各社の技術や販路を融合し、米田向けの菓分包機450台を製造・販売。空中の病原菌やウイルスを殺滅・不活性化する装置なども開発した。

一方、経済情勢の悪化などで会員数は当初の約40社から約30社に減り、世代交代も課題となっていた。新体制では、2年前に精成した下部組織の若手メンバー約10人が活動の先頭に立つという。

世界同時不況で激減した各社の受注は回復してきたが、中国など海外の中小メーカーとのコスト競争は激しいまま。6月末の通常総会で、藤谷新会長は「今まで通りの方法でリターン・ショック前の水準には戻ら

設立11年初のトップ交代 新事業の可能性探る

新旧会長が熱意を語ったアドック神戸総会＝神戸市中央区東川崎町1、市産業振興センター



ない。電気自動車が普及す、究極機(NIRO)や大学、と下請け構造も変わる」大手企業など連携を強化と指摘。「中小製造業の未来、共同受注のほか、会員来のため知恵を出し合い、各社の「第一創業」や海外会員企業の成長につなげた展開につなげる考えだ。」と力を込めた。

助言役の佐竹隆幸(兵庫)自動車とモノづくり企業の業基盤を固きながら海外発展戦略などのテーマで利益を上げられる「ラボ」研究し、中国やインドへの「リアル展開」が今後の鍵と視察も検討。新産業創出研「なる」と話している。